

小中連携教育推進校
城山中学校・八幡小学校



9月20日に小中連携推進会議が行われました。そこで、下記合同研修会の記録について分析しこれからの取り組みの方向性を打ち出しました。

◎課題別部会（生徒指導）

児童生徒は人懐っこいのですが、言葉遣いができていない。落ち着きがなく話を集中して聞けない。家庭の教育力がなく愛情不足の生徒が多い。などの課題があることが出されました。その中で、まず小中に取り組んでいけることを話し合った結果、「言葉づかい」について重点的に取り組んでいくこととしました。「言葉づかい」には、TPOを考えた言葉づかいができない。すなわち「〇〇先生いる？」などのため口になっていることと、「死ね」「うざい」「きもい」など生徒同士の言葉の乱れがあります。この2つの側面について正しい言葉づかいができるように取り組んでいくこととしました。

《具体的な方策としては》

- 意識を高める啓蒙活動として、「心をあらわす美しいことば 小中連携推進校 城山中学校・八幡小学校」のポスターを校門をはじめ生徒・保護者・地域の方が見えるところに掲示し、取り組みの意気込みを示す。家庭や地域の協力が不可欠ですので、地域の会合や保護者懇談会、学校通信・HPなどあらゆる機会を通じて協力をお願いします。
- 教室に掲示し、「～授業のルール～」と同じように、指導の根拠とする。すなわち、正しくない言葉づかいがあった時には、この掲示をどんどん活用し、普段の生活の中から生徒に意識付けと改善の要求を行う。もちろんそのためには、教員の見のがさない感性と臨機応変な指導力が必要です。
- 職員室などの出入口に、「正しい話し方の方法」など、生徒が困らないように教える事ができる掲示物を貼る。できていない時には、もう一度正しい話し方ができるように指導する。忙しいということをつい見逃してしまいがちになるところを、教員がしっかりとした意識を持って粘り強く指導を積み重ねていきましょう。
- 取り組みの意識付けのためにアンケートを実施する。時期は後期になる前までにできるだけ早く実施したいと思います。原案を教務主任を中心に考えてもらっています。2回目のアンケートを11月、3回目のアンケートを12月末に実施し生徒の変容を見ていきたいと思っています。

正しい言葉づかいができるようになることで、落ち着いた学校生活が送れることを期待しています。教室等の校内の環境整備の大切さと同じように、正しい言葉づかいは学習環境や生活環境を整える上でとても重要です。安心できる落ち着いた環境の中で生活できることが学校経営計画の3つの取組みの柱の1つ「キャリア教育の視点」（生徒の人間関係形成能力・社会形成能力）ですべての教育活動を行うことに大きく寄与します。

◎課題別部会（不登校） 生活のリズムを付けさせることに取り組む。生活リズムカレンダーの分析から課題を明らかにし、取り組む方向性を提案してください。

◎課題別部会（不登校） 小中の連携、組織だった取り組みを進めていく。小中の特別支援教育推進委員会の連携を図る。

提案別部会の「家庭学習をどう身につけさせていくか」「英語科の小中連携をどのようにすすめるか」「学習規律をどのように育てていくか」に関しまして、合同研修会の記録が小学校から届きました。課題が出てきていることに対しては、確実に手立てを講じていくことが求められます。記録をもとに校内で検討していきたいと思っています。それまでにできることについては至急に手立てを講じなくてはなりません。生徒にとって、かけがえのない3年間であり、大切な1時間の授業です。基礎・基本の分析をもとに後期から授業改善が図れるように、今月中に学年会・教科部会での分析と手立ての案をもとに教務部会での検討と提案をしてください。